

【実施結果報告書】

“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅



亀岡市「世界連邦・非核平和都市」宣言

世界の恒久平和は、人類共通の切なる願いです。

核兵器は、その願いを妨げる脅威でしかありません。

私たちが求めるのは、あらゆるいのちの営みを一瞬のうちに奪ってしまう核兵器の廃絶であり、その存在を許さない世界の実現です。

私たちは、世界連邦の意志を受け継ぎ、「非核三原則」の堅持を訴え続けます。それらは、人と人との絆を深め、いのちの尊厳を自覚して、自然と人間が共生する世界を築いていくための普遍の原理であるからです。

私たちは、ふるさとを愛し、人を愛し、戦争のない平和で美しい地球を子どもたちに伝えるため、願いを同じくする世界の人びとと共に前進することを誓い、ここに、亀岡市を「世界連邦・非核平和都市」とすることを宣言します。

平成22年 8月 7日

亀 岡 市

目 次

I “ヒロシマ” に学ぶ平和の旅について P. 1

II 参加者名簿 P. 2

III 事業報告 P. 3 ~ P. 10

IV 旅の総括 P. 11

V 参考資料

“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅について

亀岡市では、平成15年から小学生親子を対象に、被爆地広島を訪れ、平和学習および親子の絆を深めていただくことを目的とした「“ヒロシマ”に学ぶ親子平和の旅」事業を平成27年までの間、13回にわたり実施してきました。そして、昨年、平成28年8月21日には、過去13回の旅の総括の場として「平和学習講演会」を開催し、平和を希求し、“ヒロシマ”に学ぶ当事業の意義を再認識する一方で、新たな事業展開へと想いをつなぎ、当事業に幕を下ろしました。

そして、平成29年、世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、過去の事業成果を引き継ぎ、新たな一步を踏み出す事業として、市内中学生を対象とした“ヒロシマ”を通じた平和学習事業、「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」を実施することを決定しました。

小学生から一步成長した理解力と豊かな感受性で受け取る“ヒロシマ”からのメッセージを自身の言葉で、家族、友人、学校、地域へと伝え、広めていただくことを期待するものです。

事業の目的

- ①人類史上初めての原爆被災地であり、戦争の恐ろしさを象徴する“ヒロシマ”に学び、悲惨な戦争の歴史並びに“ヒロシマ”の歴史を風化させずに次代につないでゆく。
- ②市内中学生が実際に現地を訪れ、様々な資料、史跡を自身の目で確認し、さらに、被爆体験講話等を通じ、被爆された方からの当時の詳細な情報や想いに触れ、戦争や平和のイメージをより身近に明確なものとして実感、学習する。
- ③参加した生徒が事業を通じて学んだ情報や感じた想いを自身の言葉で家族、知人、友人、学校、地域へと伝えていただく。

事業内容

日時：平成29年8月22日（火）午前7時～午後7時

場所：広島平和記念公園、平和記念資料館

参加者：亀岡市内中学生 23名

(旅の当日)

- ・ 被爆体験講話の受講
- ・ 平和記念資料館の見学
- ・ ピースボランティアガイドによる平和記念公園内解説案内
- ・ 献花及び折鶴の奉納

(旅の実施後)

- ・ 感想文の提出 → 当報告書の作成
- ・ 各学校での報告
- ・ 11月開催 市主催人権啓発推進事業「ヒューマンフェスタ」での代表者報告

II 参加者名簿

学校名	学 年	氏 名	平和公園内見学时 班分け
亀岡中学校	2 年	岡田 隼門	1班 12名 (名札青色)
	2 年	大西 健太	
	2 年	田岡 大和	
別院中学校	3 年	清水 千春	
	2 年	和崎 昂	
南桑中学校	3 年	伊藤 匠馬	
	3 年	香川 隼	
育親中学校	3 年	鈴木 映海梨	
	1 年	山中 絵里菜	
東輝中学校	3 年	栗山 音々	
	2 年	北川 晃汰	
	2 年	上田 光貴	
大成中学校	2 年	松田 燎	
	1 年	馬淵 琳平	
	1 年	松本 朔弥	
詳徳中学校	3 年	渡部 かおり	
	3 年	岸裏 比那	
	1 年	廣瀬 碧里	
亀岡川東学園	9 年(3 年)	野中 綺華	
	8 年(2 年)	中川 雄大	
	7 年(1 年)	堤 陽太郎	
園部高等学校 付属中学校	3 年	八谷 萌水	
	3 年	山田 彩加	

引率者

秘書広報課

秘書広報課

秘書広報課

学校教育課

服部理恵子

橋本 大佑

西尾 一輝

岩崎 晃



Ⅲ 事業報告

【当日の行程】

7時20分 亀岡駅集合

(移動：JR山陰線、新幹線、広島市電)

10時37分 原爆ドーム前駅着

※平和記念資料館への移動の間、原爆ドームを見学

11時00分 平和記念資料館東館地下1階 会議室2

被爆体験講話の聴講

12時00分

(移動：徒歩、昼食会場へ)

12時10分

昼食 (広島流お好み焼き)

13時20分

(移動：徒歩、平和記念資料館)

13時30分 平和記念資料館東館

館内自由見学

14時15分 平和記念資料館東館エントランス集合

平和記念公園内の見学 (ピースボランティアガイド)

15時15分 原爆死没者慰霊碑前集合 (見学終着点)

原爆死没者慰霊碑 (献花)、原爆の子の像 (折鶴奉納)、集合写真撮影

15時40分

(移動：広島市電、新幹線、JR山陰線)

19時12分 亀岡駅着 解散



【 旅の記録 】

当項目については、旅の中で撮影した写真記録、参加した生徒の皆さんの感想文（抜粋）をもとに構成しています。なお、感想文の抜粋については、構成の都合上、一部文章の要約等を行っています。

（感想文より「旅のはじまり、参加について」）

- ・曾祖母は被爆者です。当時広島駅の改札を出たところで被爆した。当時と同じ所に立ち、曾祖母が被爆した広島駅を出た時、「たくさんの事を学んで帰りたい」ただそう思いました。
- ・2016年5月27日、アメリカのオバマ大統領が現職の大統領として初めて広島を訪問された「歴史的な一歩」をテレビの映像で見た時、いつか広島に行ってみたいと思っていました。
- ・現在も世の中には、化学兵器を使った争い事が多く起こっています。第一次世界大戦や第二次世界大戦のようなことは、もう繰り返してはいけない、そこで私は、化学兵器、核兵器の恐ろしさを世界に伝えている“ヒロシマ”について学ぶ平和の旅に応募しました。

《広島へ到着》

（感想文より）

- ・広島は、僕達の日常と何ら変わらない平和な時間が流れていました。原子爆弾が投下された地とは、とても思えませんでした。
- ・私は、初めて広島に行きました。第一印象は、本当にこんなところに原爆が落とされたのかということです。すごくきれいで建物も新しそうなものばかりでした。

《原爆ドームの見学》



（感想文より）

- ・原爆ドームを見て、原子爆弾の恐ろしさが一目でわかりました。
- ・実際に見て、思ったよりも小さいと感じました。でも、資料館に行って原爆ドームの原爆が投下される前の模型を見て、原爆によって大半を削られていることを知り、原爆の恐ろしさをとても感じました。
- ・テレビや新聞では感じなかったのに、実際に見ると戦争や原爆の悲惨さ、言葉には表せない戦争への憎しみを感しました。

- ・この旅で様々なものを見ましたが、一番原爆の恐ろしさを物語っていたのが、原爆ドームでした。屋根はほぼ無く、残っているのは鉄骨だけ、中には建物のがれきが残っていました。

《被爆体験講話の聴講》



講師：山本定男氏

被爆時の状況

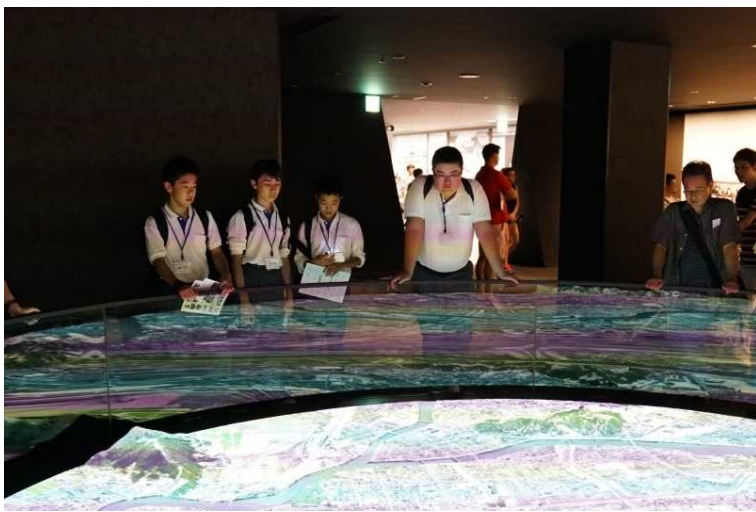
「中学2年生であった14歳のとき
爆心地から約2km離れた東練兵場
で畑の草取作業のため集合してい
たときに被爆」

(感想文より)

- 山本さんの被爆体験講話を聞いて、辛くて悲しい体験をしみじみと感じました。山本さんは、ゆっくりとわかりやすく当時を思い浮かべながら、思い出したくもない恐怖のあの日の出来事を、何も知らない僕達に教えてくださいました。
- 私が一番驚いたのは、被爆者への差別のことです。もし、私が被爆者だったら、耐えることができなかったと思います。好んで原爆の被害にあったわけじゃないのだから・・・
- 改めて原子爆弾の恐ろしさを知りました。たった一発の原子爆弾が約14万人の命を奪いました。
- 原子爆弾は、広島市民の約40パーセントの命を奪ったという話を聞き、とてもびっくりしました。自分の家族が被害にあったらと考えると、とても悲しくなりました。
- 戦争中は、いつ攻撃されるかわからないので、すごく怖くて、多くの人が辛い思いをしていたのだと分かりました。
- 三千度という高熱の中、もがき苦しむ水を求め力尽きてしまった人達や大やけどを負った身体で懸命に家へ帰った人達の話聞いて、改めて原子爆弾は本当に怖いもので、世界から無くすべきだと思いました。
- 実際に被爆者の話を聞いて、原子爆弾に対するイメージは、遠くの世界の話から、生々しい現実の話へと変わった。
- 被爆して肌がゴム風船のようになった兵隊の話は、講話が終わり、しばらくしても、私の頭から離れなかった。
- 原爆は多くの人を命を奪った。そして、生きていても、治らない傷を負った。命一つ一つを大切にしてほしい。

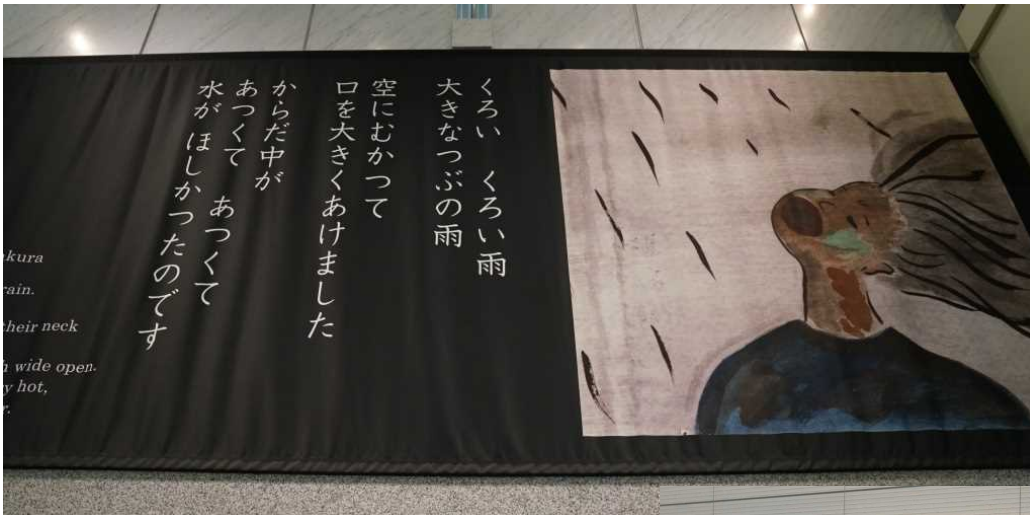


《平和記念資料館（東館）館内見学》



(感想文より)

- ・八時十五分で止まった時計、黒焦げの三輪車、黒い雨のあとが残った白壁などの展示物から、原子爆弾による被害は、僕の想像以上で、とても衝撃的でした。
- ・映像もあり、原爆がどのような物で、どれくらいの被害をもたらしたのかを、自分の目で見て学ぶことができました。
- ・残酷な写真などがあり、僕はすごく悲しい気持ちになりました。それと同時に「もう、こんなことは絶対あってはいけない」と思いました。
- ・実際に被爆した服などが展示してあって、とても生々しかったです。これを見ていると普段の生活が一瞬で奪われたので、とても悲しくなりました。
- ・被爆された方の遺品の中に、真っ黒に焦げたお弁当箱があった。被爆した少年がお母さんから作ってもらったが食べることなく、そのお弁当箱を抱きかかえるようにして少年は見つかったらしい。それを見て、少年はどのような思いで死んでいったのだろうと考え、原爆で死ぬ以上にかわいそうなことはないと思った。
- ・私が特に衝撃を受けたのは、放射線の影響で全身ががんになり、体中がはれている少女の写真です。一瞬でこのような体になってしまうことを知り、とてもこわかったです。
- ・自分と同じ年くらいだった女の子のボロボロになったワンピース、黒焦げになってしまったお弁当箱、幼い子供が乗っていた三輪車などを見ると、本当に心が痛み、思わず目を背けたくなるほどでした。
- ・原爆の威力と恐ろしさを知りました。見ているだけの自分でも「すごく怖いな」と思いました。
- ・昔は、火傷をしている人に水をあげたら死ぬとされていたようです。「黒い雨」という絵を見て、助けたいのに助けられないという悲しい気持ちがあったということがわかりました。



《平和記念公園内見学（ピースボランティアガイド）》

参加者を2班に分け、2名のピースボランティアガイドさんにそれぞれ案内、解説いただきました。



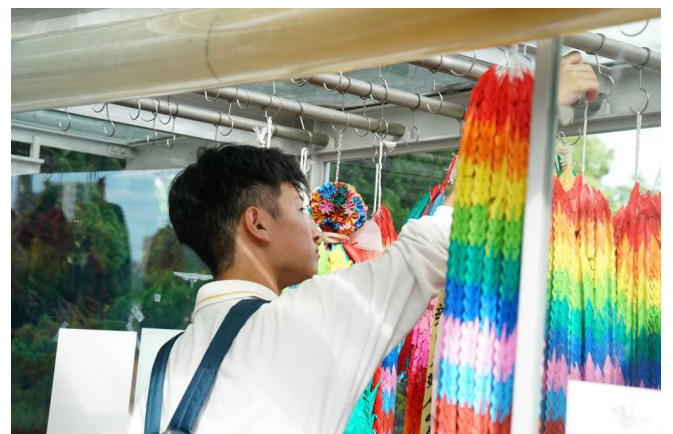
《原爆死没者慰霊碑 献花》



《原爆の子の像 折鶴奉納》

(感想文より)

- ・原爆の子の像の周りには、たくさんの千羽鶴が並べてあります。その数は、年間約1千万羽、重さ10トンにもなります。その数だけ、人々が原子爆弾はダメだと思っているのだと思うし、感動しました。
- ・今でも毎日のように折鶴が世界各地から送られてきて、みんなが世界中の平和を願っていると、改めて実感しました。



(感想文より「旅を終えて」)

- ・山本さんのように、自分達の経験を後世に伝えようと活動している方々がいる。多くの資料が残され、原爆が落とされた象徴として残されている原爆ドーム。みんなが思っているのだと思う。忘れないでほしいと、そして、二度と同じようなことが起きてはいけなないと。自分が目で見たもの、聞いた話を少しでも多くの人に話してみようと思う。
- ・原爆を体験された方が減っていつている中で、後世にこのことを伝えていくことが大切だと思った。もう同じあやまちを繰り返さないことを祈りたい。
- ・僕は広島に行って学んだことが三つあります。一つ目は、戦争の恐怖。二つ目は、被爆した人の強く生きる意志。三つ目は、平和の尊さです。これからも自分自身で平和とは何かを常に考えて行動していきたいと思います。
- ・原子爆弾の怖いところは、落とされて助かったとしても、放射線をあびて病気になったりして、そのあとも苦しんでいる人が今もいるので、もう二度と戦争をしてはだめだと、もう広島のようなことは起こってはならないと思った。
- ・原爆による被害は写真や残された遺品でも見ることはできましたが、体験されたお話を直接聞ける機会は本当にありません。僕達はその体験談を他の知らない友達にも伝えていかななくてはならないと思う。正しい情報をこれからの平和な日本を守るためにも。
- ・原爆ドームを見たのはじめてで、たくさん話をきき、とても勉強になりました。お昼のあと、となりの子が話かけてくれました。自由見学ときは二人でまわりました。
- ・私達が原爆の事を知り、これから何十年、何百年それ以上先に伝えていかなければなりません。世界で唯一の被爆国だからこそできることだと思います。
- ・この旅のことを胸に焼き付けて、一日一日大切に、生かされていることに感謝しながら生活できたら、一番被爆した人にも良いのかなと思います。
- ・実際に見て、聞いてみると戦争によってどれだけの人が苦しみ悲しい思いをするのかを知ることができました。あの悲劇を繰り返さないためにも、世界で唯一の被爆国である日本が世界に向けて原子爆弾を、戦争を無くす活動をしていくべきだと思いました。私自身もこれを機に戦争についてたくさんの人に伝えられるようになりたいと思いました。
- ・平和記念公園の中に「平和の灯」というものがある。世界に約1万5350発もある核兵器が全て無くなる時、その火は消される。私は、その火が消えることを心から望んでいる。もうこれ以上、核兵器によって人生が終わってしまわないように、苦しむ人が増えてしまわないように。そのためにもっと多くの人にヒロシマへの原爆投下のことを知ってもらいたいと思う。
- ・この旅を通して、普段考えなかった平和や幸せについてなど多くのことを考えさせられました。今「あなたは幸せですか」という問いがあったとしたら「幸せ」だと答えると思います。
- ・原爆の恐ろしさを知り、どんな理由があれ、核兵器をもう二度と作るべきではなく、もうすでにある核兵器を今すぐなくすべきだと思いました。
- ・原爆ドーム、平和記念館を見学して、命の尊さをとても感じました。自分の目で見て学ぶことができよかったです。戦争などの被害、日本でおきたことを知っておかなければならないと思いました。

IV 旅の総括

亀岡市長 桂川孝裕

広島・長崎の被爆の悲劇、そして、終戦から72年の歳月が流れました。

この間、日本は著しい復興・繁栄を遂げ、経済大国、平和国家としての地位を築き、現在、私たちは平和な日常を享受しています。

私たちは、戦争で犠牲となられた方々の無念、遺族の皆様の哀しみ、そして、戦後混沌とした時代を生き抜いて来られた数多の先人の御労苦の上に、今日の繁栄と平和があることを心に刻み、同じ悲劇が二度と繰り返されぬよう、次代を担う子どもたちに平和への想いを確実に伝えゆかなければなりません。

「世界連邦・非核平和都市」を宣言する亀岡市においては、平成29年8月22日、亀岡市内の中学生代表23名が被爆地広島での平和学習の旅に出発しました。

原爆ドーム・平和記念資料館の見学、被爆体験講話の聴講、ヒロシマピースボランティアによる平和記念公園案内など、現地だからこそ見ることのできる風景、聞くことのできる話、触れることのできる史跡を通し、平和の意味を体感し、学習いただきました。

平和な現在の広島街に降り立ち、構造がむき出しとなった原爆ドームの姿に息をのみ、自分達と同年代で被爆した体験者から語られる惨状に心を痛め、展示される数々の資料に当時を思い浮かべながら、終始真剣な眼差しで学習に取り組む姿、そして、未来に向けて、今自分に何ができるのかをそれぞれに考え抜いた様子を、この報告書から感じていただけるものと思います。

今回参加いただいた市内中学生代表23名の皆さんには、この旅での学習の成果、“ヒロシマ”で受け取った平和への想いを、学校、家庭、地域の中で伝え、共有していただくこと、そして、その想いを胸に、自ら行動に移していただくことを期待しています。

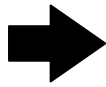
「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」で生まれた一つひとつの想いが、さらなる想いにつながり、ひろがりゆき、世界の恒久平和の一助とならんことを切に願います。

V 参考資料

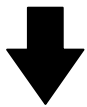
- ◆参加者募集に係る資料
- ◆平和の折鶴市民参加に係る資料

◆参加者募集に係る資料◆

・市内各中学校に
参加者募集チラシの配布



・市広報誌「キラリかめおかおしらせ」
6月1日号にて募集記事を掲載



平成29年(2017年)6月1日号(6月1日)

ゆりかごひろばママ講座「災害に備えよう！」

とき 6月16日(金)
午前10時30分～11時30分
ところ ゆりかごひろば(千歳町)
対象 未就園児とその保護者
講師 亀岡市自治防災課
内容 防災に関する知識を学んで災害に備えましょう。
費用 無料
申し込み 当日受け付け

問 NPO法人亀岡子育てネットワーク
ワーク ゆりかごひろば
TEL080-3836-8990
(こども未来課)

文化交流協会発表会 古今東西日下部任良～サクス フォンリサイタル～

とき 6月30日(金)
午後6時～8時
(午後5時30分から開場)
ところ ガレリアかめおか警ホール

内容 洋しめるリズム
出演者 日(フオン)、宝樹正堂、イーオン時
入場料 無
主催 関(小林京子)



体験農園オーナー募集

農家の人に教わりながら、土づくりから種まき、肥料のやり


方、収穫までを体験農園で学んでみませんか。
期間 7月1日(土)～12月31日(日)
ところ 亀岡市農業公園
対象 家庭菜園に興味のある人
栽培作物 Aコース: ジャガイモ、枝豆、ロマネスコ、Bコース: サツマイモ、ロメ

インレタ定員 A: Bコース9
もに約8m
参加料 両
申し込み 関
パー人材
TEL24-74:

夏休みに平和を学ぶ生徒募集!

「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」

人類史上初めての原爆被災地である広島。昨年の5月、オバマ大統領が現職の大統領として初めて広島を訪れ、核兵器の廃絶を訴えるなど、今日平和への関心は高まっています。そのような中で、亀岡市では、平和について考える機会として中学生を対象に広島への平和の旅を計画しています。



- 日時:平成29年 8月22日(火)
- 目的地(予定): 広島平和記念公園 (平和記念資料館・各慰霊碑・原爆ドーム見学・被爆体験講話など)
- 主なスケジュール(予定): 朝 7時20分亀岡駅集合⇒(JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒広島平和記念資料館(被爆体験講話)⇒(徒歩)⇒昼食(広島流お好み焼き)⇒(徒歩)⇒広島平和記念資料館等見学⇒(路面電車)⇒広島駅⇒(行きと同じ)⇒夜 19時頃 亀岡駅解散
- 参加募集人数: **20名程度(各校2～3名)**
※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。
- 参加負担金: **無料(京都・亀岡ふるさと寄附金を活用し、公費で負担します)**
- その他 ・参加者の方には後日、感想文(原稿用紙1、2枚程度)を提出してもらいます。平和の旅実施後に、参加者の感想文等をまとめた報告書を市で作成し各中学校等に配布する予定です。その際に平和の旅で撮影した写真等を使わせていただく可能性がありますので予めご了承ください。参加者代表者の方数名に、11月に行う市の行事で、旅の感想等について発表をお願いする予定です。
- 応募方法: 下記参加申込書に必要事項を記入の上、担任の先生にお渡しください。
- 応募締切: **6月30日(金)**
- 主催・お問い合わせ先: 〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地 亀岡市役所5階 秘書広報課 秘書係 TEL25-5001

「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」参加申込書

学校名	中学校	クラス	年	組
ふりがな		男		〒
氏名		女		
ふりがな			TEL	
保護者氏名	印			
備考欄				

平和推進事業「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」参加者を募集

昨年5月、原爆被災地広島をアメリカ合衆国オバマ大統領が訪問するという歴史的な一幕を迎え、「ヒロシマ」を中心に平和への関心が高まっています。そうした中、世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓発を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。


実施日時 8月22日(火)午前7時頃～午後7時頃 目的地 広島平和記念公園ほか
主なスケジュール(予定) 午前7時頃JR亀岡駅集合・出発⇒(JR)⇒京都駅⇒(新幹線)⇒広島駅⇒(路面電車)⇒広島平和記念資料館(被爆体験講話)⇒昼食⇒広島平和記念資料館ほか見学⇒(路面電車)⇒広島駅⇒(行きと同じ)⇒午後7時頃JR亀岡駅帰着・解散

参加対象者 市内在住の中学生(市外中学校へ通う生徒も含む)
募集人数 20名程度(各校2～3名)(応募多数の場合は、抽選となります)
参加負担金<交通費、昼食代など> 無料(京都・亀岡ふるさと力向上寄附金を活用し、公費負担します)
※参加者には、後日、感想文(原稿用紙1～2枚程度)を提出してもらいます。
※事業実施後、市で実施報告書を作成し、各学校等配布を予定しています。その際、事業内で撮影した写真を使用させていただきますので、ご了承ください。
※参加者代表の数人に、11月に行う市の行事で旅の感想などについて発表をお願いする予定です。

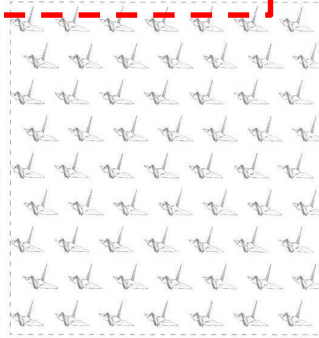
応募方法 市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入の上、担任の先生に渡してください。その他の市内中学生については、任意の様式に(学校名、学年、氏名(ふりがな)、保護者氏名(ふりがな)、住所、連絡先)を記載の上、持参、FAX、または電子メールにて市役所5階秘書広報課に提出ください。

応募締切 **6月30日(金)**

☆☆平和の折鶴募集☆☆
「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。平和への願いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。
右側の枠囲みの部分を切り取っていただき、折鶴を作成し、**7月21日(金)**までに次へ
※折鶴は、他の紙でも可。ただし、7.5cm×7.5cmの紙を使用してください。
あて先 関 〒621-8501(住所不要) 亀岡市秘書広報課秘書係 TEL25-5001、FAX25-0600 電子メール hisyo@city.kameoka.lg.jp
※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。(秘書広報課)



(キリトリせん)



【募集結果】

募集人数 20名程度

⇒ **応募総数 60名**

亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています!!

◆平和の折鶴市民参加に係る資料◆

市広報誌「キラリかめおかおしらせ」6月1日号にて、広く市民から平和の折鶴を募集しました。

結果：**2万羽を超える**折鶴が集まりました。これら折鶴は、千羽鶴にし、平和の旅の中、参加生徒一人ひとりから奉納していただきました。

平成29年(2017年)6月1日号(6月1日発行) No.817(13)

<p>ゆりかごひろばママ講座「災害に備えよう！」</p> <p>と き 6月16日(金) 午前10時30分～11時30分</p> <p>と ころ ゆりかごひろば(千歳町)</p> <p>対 象 未就園児とその保護者</p> <p>講 師 亀岡市自治防災課</p> <p>内 容 防災に関する知識を学んで災害に備えましょう。</p> <p>費 用 無料</p> <p>申し込み 当日受け付け</p>	<p>問 NPO法人亀岡子育てネットワーク ゆりかごひろば TEL080-3836-8990 (こども未来課)</p> <p>文化交流協会発表会 古今東西日下部任良～サクソ フォンリサイタル～</p> <p>と き 6月30日(金) 午後6時～8時 (午後5時30分から開場)</p> <p>と ころ ガレリアかめおか響ホール</p>	<p>内 容 洋楽と邦楽の両方を楽しめるリサイタル</p> <p>出演者 日下部任良(サクソフォン)、藤井優香(ピアノ)、宝樹正堂(日本舞踊)、マクイン時由深山(十七絃)</p> <p>入場料 無料</p> <p>主 催 問 亀岡文化交流協会会長 小林京子 TEL22-4127 (市民力推進課)</p>
---	---	---

<p>募集</p> <p>体験農園オーナー募集</p> <p>農家の人に教わりながら、土づくりから種まき、肥料のやり</p>	<p>方、収穫までを体験農園で学んでみませんか。</p> <p>期 間 7月1日(土)～12月31日(日)</p> <p>と ころ 亀岡市農業公園</p> <p>対 象 家庭菜園に興味のある人</p> <p>栽培作物 Aコース：ジャガイモ、枝豆、ロマネスコ Bコース：サツマイモ、ロメ</p>	<p>インレタス</p> <p>定 員 Aコース16区画 Bコース9区画(1区画は1畝とも約8m、先着順)</p> <p>参加料 両コースとも各10,000円</p> <p>申し込み 問 (公社)亀岡市シルバー人材センター TEL24-7423、FAX25-2644 (農林振興課)</p>
--	--	---

平和推進事業「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」参加者を募集

昨年5月、原爆被災地広島をアメリカ合衆国オバマ大統領が訪問するという歴史的な一幕を迎え、“ヒロシマ”を中心に平和への関心が高まっています。そうした中、世界連邦・非核平和都市宣言を掲げる亀岡市では、平和への思いを次代へつなぐとともに、広く意識の啓発を図ることを目的に、市内中学生を対象とした広島への平和学習の旅を次のとおり実施します。

実施日時 8月22日(火)午前7時頃～午後7時頃 **目的地** 広島平和記念公園ほか

主なスケジュール(予定) 午前7時頃JR亀岡駅集合・出発→(JR)→京都駅→(新幹線)→広島駅→(路面電車)→広島平和記念資料館(被爆体験講話)→昼食→広島平和記念資料館ほか見学→(路面電車)→広島駅→(行きと同じ)→午後7時頃JR亀岡駅帰着・解散

参加対象者 市内在住の中学生(市外中学校へ通う生徒も含む)

募集人数 20人程度(各校2～3人)(応募多数の場合は、抽選となります)

参加負担金<交通費、昼食代など> 無料(京都・亀岡ふるさと力向上寄附金を活用し、公費負担します)

※参加者には、後日、感想文(原稿用紙1～2枚程度)を提出してもらいます。

※事業実施後、市で実施報告書を作成し、各学校等配布を予定しています。その際、事業内で撮影した写真を使用させていただきますので、ご了承ください。

※参加者代表の教員に、11月に行う市の行事で旅の感想などについて発表をお願いする予定です。

応募方法 市内中学校の生徒については、各学校配布の「募集チラシ兼参加申込書」に必要事項を記入の上、担任の先生に渡してください。その他の市内中学生については、任意の様式に(学校名、学年、氏名(ふりがな)、保護者氏名(ふりがな)、住所、連絡先)を記載の上、持参、FAX、または電子メールにて市役所5階秘書広報課に提出ください。

応募締切 6月30日(金)

☆☆平和の折鶴募集☆☆

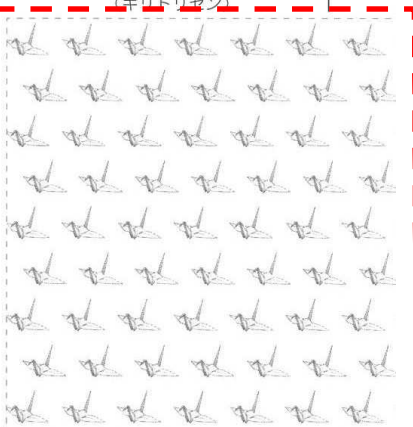
「“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅」において広島平和記念公園で中学生が奉納する折鶴を募集します。平和への願いを込めた折鶴で皆さんも事業に参加してみませんか。

右側の枠囲みの部分を切り取っていただき、折鶴を作成し、**7月21日(金)までに次へ**

※折鶴は、他の紙でも可、ただし、7.5cm×7.5cmの紙を使用してください。

あて先 **問** 〒621-8501(住所不要) 亀岡市秘書広報課秘書係 TEL25-5001、FAX25-0600 電子メール hisyo@city.kameoka.lg.jp

※平和の折鶴は、市役所1階市民情報コーナーに設置の折鶴受付BOXでも受け付けます。
(秘書広報課)



(キリトリ線)

亀岡市の広報紙・ホームページへの広告掲載を募集しています!!